

話し合いの場「協議体」開催

～いつまでも元気で安心して生活できる地域づくりを目指して～

日頃の生活を送る上で「ちょっとした困りごと」を住民同士で支え合う仕組みづくりを目的とした生活支援サービスについて協議しました。

最初に、これまで協議して

きた生活支援サービスの仕組みづくりについて説明した後に、本町ならではの仕組みづくりについて話し合いました。

「協議体とは」

高齢期を迎えて、生活をしていくなかで困りごとを抱えても、できる限り自分で日々の生活を考えて自分らしい暮らしができる仕組みを話し合う場です。

高齢者の生活支援や介護予防サービスの充実を図るとともに、住民がお互いに支え合

て生活できる仕組みづくりを推進することを目的としています。

本町では、区長・民生委員・老人クラブ・介護予防を目的とするボランティア・シルバー人材センター・行政・地域包括支援センター・社協などから選出された委員で組織しています。

火の国ボランティアフェスティバル参加

～新たな絆をここからin葦水～

県内のボランティア活動のより一層の振興を図ることを目的に、ボランティア関係のメイン行事として、3年ぶりに「火の国ボランティアフェスティバル」が開催されました。

今回は、「令和2年7月豪雨災害からの復興」として、水俣・葦北地域から「新たな絆」を発信するためにコロナ禍に配慮し、オンライン配信での開催となりました。

フェスティバルでは、「令和2年7月豪雨災害を振り返って」～ボランティアのチカラ、ボランティアのキズナ

～をテーマに人吉市、球磨村、八代市、津奈木町、葦北町のボランティアおよび社協職員によるパネルディスカッションが行われました。

発災後からの災害ボランティアセンターの運営から復興半ばの現在の様子が説明されました。その後の開催地継ぎ式で

は、次回が人吉・球磨地域での開催が予定されているため、人吉・球磨ブロックボランティア連絡協議会長で多良木町ボランティア連絡協議会の山田信雄会長が出席され、大会旗が引継がれました。



社協の

歳末助け合い事業

社協では高齢者世帯や障がい者世帯で、低所得の方へ年末の助け合い事業として、歳末助け合い支援金を贈呈しています。令和4年度は11世帯が贈呈の対象となり、年末には支援金を担当地区の民生委員さんにご協力いただきお届けしました。



次の方々から社会福祉のためにとご寄附をいただきました。皆さまの温かい善意に感謝申し上げますとともに、故人のご冥福を心からお祈り申し上げます。(敬称略・受付順)

- 鶴田 千鶴子(故 勝義) 黒1区
- 宮鹿野 一久(故 一二三) 多11区の1
- 赤池 誠也(故 毅) 多8区の2
- 犬童 英昭(故 和徳) 黒2区
- 葛川 良光(故 ミトシ) 多2区の2
- 中原 一水(故 シカネ) 多9区の1
- 井上 栄子(故 迫田カズエ) 黒3区
- 吉田 早苗(故 雪美) 多9区の2
- 愛甲 文範(故 松子) 多1区の1
- 湊田 重行(故 幸) 多3区の2
- 川辺 清子(故 武富) 久7区
- 山本 美富(故 艶子) 多1区の2
- 竹辺 篤(故 竹邊義富) 多2区の1
- 尾方 サヨ子(故 征浩) 多6区の2
- 脇川 勝子(故 六良夫) 黒7区